



頑張る産地

梨友会^{りゆうかい}で梨後継者の“やる気”を引き出す！

印旛農業事務所改良普及課
普及指導員 宮沢裕章

梨友会は「会に入れば梨栽培の基礎が身につく」、後継者が安心して就農できるように学習する組織です。同世代の会員同士、刺激し合いながら楽しく活動しています。梨の栽培技術だけでなく、会の運営方法を身に付け、各産地の中心的存在となるよう頑張っています。

1 梨友会の設立

管内では、毎年 2～3 名の梨後継者が就農しています。そんな就農後間もない後継者からの「基礎を勉強する場が欲しい」との声を受け、農業事務所で基礎技術の講習会を開催したのが会の始まりです。

参加者が次第に増加したこともあり、リーダーの若手農業者と普及員が話し合いを重ね、平成 24 年 2 月に「梨友会」が発足しました。

2 活動内容

「梨友会」の基本方針は①梨栽培の基礎技術習得 ②4 年程度で卒業 ③自立した活動 ④会の運営方法を勉強の 4 つを掲げています。技術だけでなく、将来、産地や組織の中心的存在になるため、今から組織運営を学んでいます。そして卒業後は産地の中心的担い手として活躍出来るような人材になることを目指しています。

梨友会の主な活動は梨の栽培技術講習会です。せん定や新梢管理といった重要な管理だけでなく、通常の講習会ではあまり取り上げない摘蕾や摘果なども取り上げ、月 1 回程度の講習会を開催しています。また梨の生理や土壌肥料などの座学や他県への視察研修も行い、知識の充実を図っています。



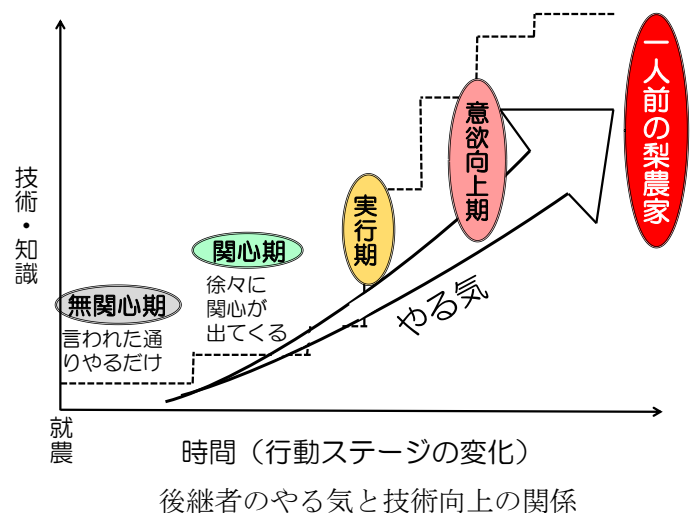
熱心に講習を受ける会員

3 活動の成果

会員は入会 1 年後には全員が年間を通して独力で管理が行えるようになっていきます。数年でベテランと遜色ないほどの技術レベルに向上する会員もいます。

また、意欲的に活動している先輩会員から刺激を受けることで行動ステージが変化し、より活動意欲が向上していきます。そして技術が向上するにつれて自信が生まれ、積極的に発言をしたり、後輩に教えるようになっていきます。

また技術や知識が向上することで、経営参画への意識も向上しています。実際に施肥や防除方法の変更、販売方法の改善をした会員もいます。



4 今後の展望

「梨友会に入れば基礎が身につく」と後継者が安心して就農できる、地域の受け皿としての定着を図ります。そして基礎栽培技術の習得はもちろん、同世代のネットワークを広げ、幅広い視野を持った担い手の育成を目指します。